

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100032		
法人名	有限会社 タスク		
事業所名	グループホーム かつを		
所在地	静岡県焼津市中根181		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	令和3年 1月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295100032-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年	10月	30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者さん・職員が共に、活き生きと共同生活を送れる馴染みの家を築く事を目標に、『私たちのケア方針』を念頭にサービス提供に努めている。</p> <p>①自分(家族)が、入居したいと思う施設を自分達で創る。</p> <p>②利用者さんの思いをいつも感じとる・察する姿勢・気づきの目を培う。</p> <p>③利用者さんが、日々安心・安全に過ごせる環境、心地よく安らぐ居場所作りに努める。</p> <p>④利用者さん職員が、日々元気に明るく楽しく(活き生き)過ごせる「第2の我が家」であるよう、ヒヒ取り組んでいく。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者や家族の思いを入居の前や入居後もよく聞き取り把握して総合的に細やかに支援をしている。常に「馴染みの家」になるように管理者や職員は意識をして支援している姿勢が感じ取れる。家族にはラインやメールで利用者の今の様子を動画や写真で送り、コロナで自由に面会ができなくても理解してもらえるように支援している。コロナや感染症対策も継続して取り組んでいる。職員は管理者を信頼して、話しやすい関係性を築いている。また職員間のコミュニケーションも取れている。社長も毎朝顔を出し、アドバイスをしたり、職員が定時で帰宅できるような体制にする等働きやすい環境作りに取り組んでいる。身体拘束の研修にも力を入れ、実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時・個別面接時に設立の思い・理念について社長より講話を受けている。 理念に基づいた『ケア方針』について、年2回目的を確認し、自己評価を実施している。 又職員は、掲げている『ケア方針』の実現に向け、利用者さん・職員が共に生き生きと暮らせる「馴染の家」を築けるよう取り組んでいる。	法人で「かつを理念」と「家訓(職員倫理)」があり、それに基づいて全職員で考えたグループホームの理念が「私たちのケア方針」で、実践できているかチェック方式で確認している。会議録の最後に言葉を載せて、締めくりに全職員で再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭典・清掃活動に参加している。 秋の祭典の際は、(今年は新型コロナウイルス感染拡大につき中止)当施設駐車場にて地区で伝統伝承されている笛太鼓の演奏と御神輿・屋台の引きまわりを披露して下さる。町内・地域住民・子供会の方々との交流の場になっている。又当日は、利用者さん手作りした物やお菓子等を袋に詰め、子供さん達に一人一人手渡している。平成29年クリスマス会から、焼津中央高校吹奏楽部の皆さんに生演奏を披露して頂き、生徒さん達と交流を図っている。	自治会に加入していて、地区の行事で参加できるものは職員や利用者が参加している。近所や家族からマスクの寄付があった。地区の申し出で秋の祭典の時に事業所の駐車場で中根太鼓と神輿の披露があり、多くの住民が観覧に来所、事業所の認知にも繋がっている。小学校4年生の福祉体験交流やクリスマスに焼津中央高校吹奏楽部の演奏のボランティアが来てくれるなど、地域に密着した事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居されている方のご家族に限らず、相談に応じている。相談内容により、事業所内他事業利用者・ご家族方々にも、介護・支援方法等もお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。地区の町内会・民生委員の方・包括・行政・利用者さん(利用者ご家族)の方々に参加して頂き、利用者さんの様子や状態又施設内の職員状況や活動報告を行っている。又地域のお年寄りの方々の状況や、施設事業運営・サービス・活動に関してのご意見やアドバイスを頂き、より良いサービスの提供・地域貢献を目指している。昨年度第6回から今年度第3回迄は文章での報告、ご意見についてはお電話にて対応させて頂いた。	2ヶ月に1度、第3火曜日の13:30から1時間位で開催していたが、最近は書面開催で行なっている。町内会長や民生委員が毎回参加してくれ、家族の参加もある。内容は利用者の様子や状態を2ヶ月前と現在を比較して示し、活動を紹介している。民生委員から近所の高齢者の生活相談を受ける事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、焼津市長寿福祉課担当の方々に、報告・連絡・相談にて、指導・アドバイス等を頂いている。	運営のことや法律の関係、改善計画などを相談に出かけ、アドバイスを貰っている。河川課へ洪水対策について相談や質問したり、地域包括支援センターとは入居のことで連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」宣言をしています。 ・玄関施錠については、コロナ感染拡大となった時点から行っている。 ・身体拘束適正化に向けて取り組みとして、「指針」を作成し委員会を設置した。 ・委員会の実施、年3回の研修を行っている。	指針は作り直して整備している。委員会のメンバーは主任と職員全員で毎月の職員会議の後に委員会を開き、個別ケア支援を検討している。研修は年3回行っていて、内容は指針の確認やスリーロックのことなど基本的な事を学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設独自でマニュアルを作成し、年に一度社内研修を実施し、正しく学ぶ機会を設けている。施設内において虐待を見逃ごすことがないように、年2回スタッフ自己評価を実施し、自らケア方法を振り返る機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見人制度を利用されている方はいらっしゃいませんが、平成29年4月迄約10年間入居されていた方が制度を利用されていたことで、制度についての活用方法を学ばせて頂きました。この経験を今後も生かしていきます。 先日、県社会福祉協議会より成年後見人制度についてのDVDが送られてきた。次回ミーティング時に活用し職員全員が理解できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が責任を持ち、説明をしている。又改定等の変更があった際は、随時利用者さんご家族にお時間を頂き、個別にて説明対応し理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会・2年に一度の外部評価アンケート・年4回訪問される相談員の方々からのご意見を、ミーティング等にて職員へ報告・検討し運営に反映している。又地域運営会議にて報告させて頂いている。今年度は、コロナ感染拡大の為家族会の開催を中止した。	年に1回の家族会は「かつを祭」の日に行い全家族が集まり、親睦を深めていた。介護相談員は4ヶ月に1度訪問してくれ、意見は運営に反映させている。職員は担当制をとっており、信頼関係を築き担当の家族に意見を聞いている。毎月のお便りは写真が多く使われ、利用者の日常生活がよくわかる内容になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度開催するミーティング時又個人面談にて、職員からの意見提案を聞く機会を設け、運営会にて意見・提案について検討し回答している。又随時意見・提案ができる環境づくりの体制づくりに取り組んでいる。	月に1度開催されている職員会議はカンファレンスや委員会の報告などで1時間から1時間半かけて行われている。職員の評価の面談は年に1度あり、職員が社長に直接意見や提案ができる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に関して、個々の事情も踏まえ働き易い職場づくり(就業規則の含め)に、取り組んでいる。家庭状況に変化に応じ随時勤務変更、産休・育児休暇、資格手当等職員からの要望も含め適宜相談検討し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の情報提供。 社内研修については、職員の要望・知識技術の課題を収集し、座学・実技にて理解・技術の習得を目標に取り組んでいる。又資格習得に向けての支援、外部研修情報提供に努め、受講者への勤務修正や受講日の休暇希望も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所が、年4回定期的サービス向上をテーマに開催している。出席者も管理者や主任・職員などが参加し交流の場にもなっている。今年度は、8月より再開した。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ずご本人と面談し、ちょっとした顔見知りの関係作りから始めている。面談時には、生活歴や暮らしぶりをゆっくり聞き受け、入居生活のスタートするに当たり少しでも不安を軽減できるう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に必ず、ご家族と面談し困っている事・施設に望む事を伺い、まずはご家族とより良い関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談面談時において、ご本人の状態やご家族の状況等を聞き受け、グループホーム入居がよりよい選択であるのかを見極め、状態や状況に応じ他各種サービスの説明等の対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分だったら、、、。」と立場を置き換えて、一人一人の生活観や思いや意向を尊重し、共に心地よく暮らせる関係作りに取り組んでいる。職員も伴に共同生活者であると考えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、モニタリングの結果(現在取組んでいる事や頑張っている事)・日々の様子や体の状態等を報告し、離れて暮らしていても家族の一員であること、又ご家族の協力無しではご本人を支える事ができない事を踏まえた関係作りにも努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類の方々に限らず、お元気だった頃に交流のあった方や趣味活動で共に活動されていた方達に気軽に訪問して頂ける環境作り、又今まで参加していた集い・会への参加・電話連絡支援等にも努めている。	利用者は小規模多機能ホームから移動された方がいるので、日頃から馴染みの関係になっている。音楽と体操療法が月に1度ずつ行われ、コロナ前は家族、知人や従兄弟等の面会も多くあった。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との関係や交流を築けない方には、職員が橋渡しの支援を行っている。座席についても、ご本人の意向も踏まえ気の合った方との隣席にする等の配慮に努めている。入居後、知り合った方々ではありますが、共に支えあって暮らしていく同志であって欲しいと願い支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・他施設へ入所され契約が終了された方であっても、ご家族に了承を得た上で面会に行かせて頂いたり、又ご家族からの相談を随時受けられる関係の継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中から暮らしへの意向や思いを伺っている。意思疎通の難しい方は、日常生活内の様子や言動・表情等を観察し把握に努めている。	ケアの方針の中に「利用者さんの思いを尊重し接する。」があり、職員は常に利用者寄り添い表情から観察して思いを感じとり、ケアに活かしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談アセスメント時に、生活歴や生活スタイル・趣味・社会参加、又ご兄弟やご家族との関わり・既往歴や健康状態等、ご本人とご家族に伺い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態観察把握(病状・排泄・食事・睡眠・表情・発語・歩行状態など)、出来る事・できそうな事(挑戦)の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月～2ヶ月毎に、担当者・主任・計画作成者間で、現状の把握とサービスケア実施後のご本人の満足度(言動や表情などにて)や意向や思いを伺い、モニタリングを実施している。新たな課題・変更が必要な際はミーティング等で話し合い、又ご家族からは、モニタリング内容の説明時や面会時に現状に応じてプラン作成に努めている。	モニタリングは担当職員、主任、計画作成者で行い、大きな変更が見られた場合は職員会議で対応を検討している。利用者や家族の意向を確認して介護計画書を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タイムリーに記録を記載し、毎日朝・夕に申し送りを実施し、情報の共有に努めている。状態により統一ケア・とし、必要に応じプランの変更を適宜行っている。ケアの検討が必要な事項については、個別ケア検討として試し、統一ケアやプランへ繋げている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の現状に応じた機能訓練や体操を行っている。 ご家族の状況に応じて、病院受診(受付・予約)・日用品の購入・外出等の援助を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者さんが暮らしていた地域の資源の把握は難しいが、施設がある地域資源の情報は把握し活用しに努めている。(地域の祭りや公民館祭り等)	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居後最初の受診時には、ご本人(ご家族)と同行させて頂き、主治医へご挨拶をさせて頂き、介護計画書を持参提出し、今後の連携方法を相談させて頂いている。 ・定期受診については、基本ご家族にお願いしています。受診する際は、看護師(管理者)が受診メモ(バイタル数値・食事分量・排尿排便等日々の記録と生活の様子・相談事項等)を作成し報告相談を行い、アドバイス・指導指示を返信欄に記入し頂き連携に動いている。 ・緊急受診・ご家族が対応できない受診は、可能な限り管理者が対応させて頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続されている利用者や事業所の協力医に受診している利用者があり、協力医は事業所に近く、介護施設の現状を把握し理解しているため、受診時間等を配慮してくれる。かかりつけ医の受診については、家族様対応としているが無理な場合は、管理者が対応し、時には家族と同行して出かける。歯科は必要に応じて訪問歯科医を利用している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々介護職員が、気づいた事・体調・状態等を記録ノートに記載・申し送りを行っている。受けた看護師が適宜処置・指示・指導を行なっている。緊急・変調時は、看護師又は管理者からご家族に報告相談を行い、適切かつ迅速な対応に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院の担当看護師の方に情報(アセスメント)を提供。適宜面会に行かせて頂き、病棟看護師・担当相談員の方に状態を伺い、ご本人・ご家族が安心して治療を受けて頂けるよう、又早期退院へ繋がるよう連携を図っている。退院カンファレンス開催時は、同席させて頂き、退院後の生活上の留意点や指示指導を頂き再発防止に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2018年4月、契約書・重要事項改定「医療との連携体制」 ①重度化した場合における対応に関する指針 ②看取りに関する考え方 ①②を加えた。 契約時に、重要事項説明書を用いて施設に於いて行える行為・行えない行為(医療行為)等説明させて頂いている。	契約時に事業所の方針を説明し、重要事項説明書にサインを頂き、定期的に意向を確認している。終末期が近づいてくるとかかりつけ医と家族と管理者が対応を相談して支援している。職員に看護師がいるので介護職員は心強い。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の初期対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を開催している。フローチャート図をフロア内に掲示し、全ての職員が迅速に対応できるよう努めている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上訓練を実施している。 訓練内容については、行政危機対本部からの依頼に沿った訓練、地域性から地震・津波への備えを意識した訓練を実施している。地域(市防災訓練)で実施される訓練にも協力体制を築いていけるよう出来る限りの参加に努めている。地域推進会議に於いても訓練実施報告を行っている。 水災害についての避難計画書を改正。 職員が、焼津市防災メール登録している。	河川課との話し合いで新しく水害についての指針を作成した。防災訓練は年に2回想定を変えて、日中と夜間で行なっている。消防署の立ち会いや運営推進会議の時に、意見を伺っている。備蓄品は台帳も整備され準備してある。地域連携と発電機の準備について話し合いをしていた所、コロナの対応で中断している。	地域住民が災害の時に協力してくれる件を話し合っていたので継続して完了し、長期停電に備え、問題点をだし、対策を検討できるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護・個人情報の取り扱いについての勉強会を年1回実施している。又一人一人の人格尊重については、年2回実施している「自己評価表」に、言葉掛けや対応等(身体拘束:スピーチロック・フィジカルロック・ドラックロック)の項目があり関わり方を振り返る機会を設けている。又職員からの提案で「柔らか言葉・ふわふわ言葉」を発するよう心掛けている。	プライバシーについて、一人一人の尊重についての研修を定期的に行なっている。利用者との職員の会話の言い方がきつくならないように語尾を柔らかく話すよう工夫している。名前の呼び方は～さんが基本であるが、利用者や家族の希望で～ちゃんと呼ぶこともあるが、承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝支度の時・入浴の時間等、ご利用者さんと職員が1対1でゆっくり過ごせる時間を設け、ご本人が今の様な思いで暮らしているのか、又望んでいる事や意向等伺い、達成実現できるようサポートしている。小さな事ではあるが、毎日の生活内に於いても、意志決定する機会を設けている。※衣類・飲み物等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴時間等は、ご利用者さんの意向や状態に応じて行っている。10時のお茶の時間に、「今日は何しようかね～」等午後の活動の時間の過ごし方についてご利用者さんの意見を伺い決定している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・翌日着用する衣類について: 前夜に「明日着る服どれにしようか?」と、ご本人さんと一緒に準備行う。 ・整容について: ご利用者毎で援助方法が違う。 起床更衣後、洗顔を使用する方・ホットタオルを利用する方、介助方法に注以外は、介助)は起床時、後、入浴後に、整えの支援をしている。 ・理美容について 2ヶ月に1度、同じ理美容の方が出向いて下さりカットをして下さる。髪型についての要望や希望が伝えられる方は、ご自分で理容師の方に伝えられている。 ・外出時の服用: 季節に応じたトップスをご家族の方に用意して頂き、外出時に選択の手助けをしている。 帽子やスカーフ等も。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな食べ物を伺い、調理担当者に伝え、献立に取り込んでもらっている。苦手な食材がメインに使われている時は、調理担当者が別メニュー対応を。又季節を味わえる食材や献立の提供に努めている。又一人一人の咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。入居されているご利用者さんの状態により違いはありますが、配膳・盛り付け・米とぎ・食器洗い等、職員と一緒にやっている。	利用者に好きなものや食べたい希望を聞いて、昼食と夕食は管理者が献立を作成している。調理専門の職員が差し入れや季節の物、食材を買い足して臨機応変に献立をアレンジ調理している。朝食は職員が考えて、生協等で購入し調理している。利用者には米とぎや食器洗い、食器拭き等できることを手伝ってもらっている。おやつレクレーションで、ケーキやたこ焼きを皆で作り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にて、1日の食事量・水分量の把握管理を行い書面にて記録保存している。又病状により(医師の指示)、水分制限・塩分制限・糖質制限を行っている。栄養のバランス留意し、献立作成に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	実践状況	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々の口腔状態(ケアスポンジ・歯間ブラシ・舌苔ブラシなど使用)や自立度に応じたケア支援を行っている。個々にて口腔内環境、歯周病、口臭予防に歯ブラシ後にデンタル液を使用している。		次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にて支援方法が異なりますが、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握にて汚染失禁を防ぐ取組み、又利用者さんの尿意・便意を大事を行っている。排泄統一表も作成し、個々の自立度に応じたケアを行っている。コスバも考慮し、排泄用品の選定も随時行っている。又リハビリパンツ・オムツに頼らないケアに取組んでいる。日中は基本布パンツを着用。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握し、全員日中は布パンツでトイレでの排泄を継続して支援している。時には2人介助で対応している。個々の状態によって、パットを使用したり夜間のみ紙おむつやポータブルトイレを使用している。排尿の助けに腹圧を高めることもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の原因要因を追求し、冷たい牛乳や毎朝食ヨーグルト(加えてバナナ)を提供し腸内環境の整えている。又、適度な運動の取入れとして、午後体操訓練の時間にては、身体を動かす機会を提供し、薬に頼らず自然な排便・便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々本人の身体的状態や好みに対応している。いつでも入浴できるよう毎日準備をしている。入浴を好まれない方もいらっしゃいますが、最低2回/週の入浴又はシャワーを実施し、清潔保持・血流循環を促している。夜間入浴の支援までは未だいたっていない。	9時半から午後にかけて、1日3~4人を目安に入浴支援を行なっている。栓の浴槽があり、入浴剤は使用していない。ジャンパーは好みで使用している。施設内に福祉用具の店が併設されているので、取り外しのできる介助用具を使って入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や個々の状態(年齢的)・医師からの指示に応じた休息時間を設けている。季節柄気温に応じて、就寝前に湯たんぽにて寝具を暖めておく・エアコンで室温調整等にて安眠への支援を行っている。照明や光が差し込み等で眠れない方の対応として、遮光カーテンを設置している方もいる。夜間排泄についても個々対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々服用されている薬表をご家族より頂き、フォイリング保管し常時間覧できることで、服用薬の名前や効能・副作用などの知識が得られる。又個々服用薬が追加されたり、変更された場合は、経過観察し、変調が見られた際は、ご家族・主治医に報告連絡等を行い対応している。主治医からの指示にて、状態により看護師管理下にて内服(量)・処置あり。誤薬事故防止として、内服薬は確実に口腔内へ(確認)、薬セット(3回確認)、内服者と内服薬相違確認(2名)を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、ご本人が思っている事ややりたい事・楽しみにされている事を、会話の中や表情から聴き感じ取り、出来る限りの実現に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「行きたい所はある?」、「美味しもの食べに行きたいね〜」「〇〇狩り!」「買い物行きたい。」等日常生活の会話内で意向を伺い、利用者さんと一緒に計画を立てて外出への支援に取り組んでいる。又、気候の良い時は、近場ではあるが外気や日光を受けることで季節を感じる支援も行っている。 お誕生食事会や新年やお盆の顔合わせ・法事お墓参り等ご家族の協力を得外出されている。	天気の良い日の午前中は外のデッキに出て、歌を歌いながら外気浴を行い、午後は歩行訓練を兼ねて施設周辺を散歩している。コロナ前は事業所内での交流や利用者の希望で買い物や外食に出かけていた。いちご狩りは利用者、職員とも楽しみにしていて、昨年は利用者の希望で2回出かけた。また、家族に協力をお願いし、一時帰宅や外食、お正月を家で過ごすことも行なわれていた。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお小遣いや日用品購入の個々金銭管理は、出納帳を作成し、ご家族の要望・トラブル回避ができるよう管理者が行なっている。外出時の買い物等の際は、個々の状態に応じ対応している。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡、「電話したいよ。」「話たいことがある。伝えたい事がある。」等の要望については、ご家族の状況(勤務中など)を踏まえて対応している。又手紙については、ご家族にも協力を得てやり取りの支援を行っている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用している場所・個人の居室の掃除を毎日行っている。又年2回ご家族の協力を得、環境整備(害虫駆除・ワックス・ベッド等日頃できないところ)を職員の手で行っている。 湿度・温度・明るさや壁のカレンダー等の季節を感じられるものを掲示したりして工夫している。	玄関から居間に続く廊下の壁には利用者職員が作った季節の作品や利用者の何気ない表情をとらえた日常の写真が掲示されている。調査当日も職員と利用者が次の作品作りを行っていた。管理者、職員は壁や床、収納など気になる部分を見つけると整備するように心がけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みに座られる方や、居室で本を読まれたり、ベッドに横になったり、又ラジオを聞かれる方等自分の思い思いに過ごされることができるよう支援をしている。状況やご利用者さんの状態に応じて席の移動・テーブルの配置等も工夫し対応している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得、ご自宅で愛用されていた・見慣れた使い慣れたタンスや椅子等運び入れて頂き、出来る限りご自宅のお部屋の環境に近づけることができるよう努めている。	利用者自身の嫁入りの桐タンスや家でよく使っていた椅子が持ち込まれ、ぬいぐるみが大好きな利用者のベッドには大切に置かれている。自分の部屋を清掃する利用者がいて、居間も職員と一緒に清掃をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の力で立つ・起き上がる・移動する動作が安全に行えるよう、動線の確保や手摺・滑り止め等々必要であろうと思われる用具や用品を取り付け等の工夫を行い、できている動作の維持・安全な環境作りに努めている。				